



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

竹沢, 泰子

---

CITATION:

竹沢, 泰子. はじめに. 人文學報 2011, 100: i-ii

ISSUE DATE:

2011-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/148037>

RIGHT:

# は じ め に

竹 沢 泰 子

本号は、人文科学研究所を拠点とする共同研究「日本・アジアにおける差異の表象」および  
科研基盤（S）「人種表象の日本型グローバル研究」の成果の一部である。2001年から継続的  
に行ってきた人種に関する共同研究も今年度でちょうど10年を迎える。当初は、人種概念の  
構築過程について、日本の沖縄、アイヌ、天皇制、被差別部落を含めた世界諸地域の事例を国  
内外の研究者の協力を得ながら洗い直すことを手がけた。その後、人種概念から社会的実在  
性へと軸足を移動させ、2010年からは、日本やアジアにおける差異の表象に注目しつつ、よ  
り多くの海外の研究者に加わって頂く共同研究へと発展している。

従来の人種研究は、ヨーロッパやアメリカの国内外の植民地経験に基づいている。そのため  
「比較研究」の名を冠してはいても、実際には欧米とその旧植民地、すなわち、北米、中南米、  
ヨーロッパ、アフリカなどのいわゆる環大西洋地域の事例が大半を占めており、なかでもアメ  
リカ合衆国、ブラジル、南アフリカは、国際比較研究に登場する定番の国家であった。こうし  
て、アフリカ系や、先住アメリカ人、ユダヤ人などの事例に基づく人種理論が発展してきた一  
方で、欧米の植民地主義の直接的な影響が及びにくかった地域における「人種」については、  
ほとんど手つかずのままであった。

2010年からスタートした新しい共同研究では、これまで人種研究を牽引してきた欧米の研  
究とは研究の視点を異にする国際共同研究を目指している。それは、欧米の人種研究との対峙  
を意味するわけではない。むしろ、日本・東アジアにより顕著に見られる「見えない人種」を  
めぐる表象と、欧米等の他地域に根ざした人種表象を接合させることにより、そこに人種表象  
の力学として通底するものは何かを探る共同研究である。

「人種表象の日本型グローバル研究」という研究題目の「日本型」という用語に、若干の説  
明が必要かもしれない。あえてこの題目をつけた第一の理由は、国籍にかかわらず日本に研究  
基盤を置く研究者の主体性を明確に打ち出すことにあった。マイノリティにとって抵抗の実践  
にカテゴリーが不可欠であるように、この表現も、既存の欧米主導の理論的パラダイムに対す  
る一つの学術的抵抗の表現である。第二に、大半の先行研究で看過されてきた「見えない人

種」や非可視的な人種表象について、日本やアジアの経験に基づく実証研究および理論構築を目指すことである。第三に、顔を合わせた共同研究会を頻繁に行うといった日本の学術コミュニティの特性を活かすことである。「日本型」は、これらの複合的な意味を備えている。

過去 10 年間の共同研究の主たる成果は、3 冊の論文集として刊行したが、本号は、「差異の表象」という題目で特集号を組んだ。人種表象は、社会の他のさまざまな周縁化された人々の身体が表象され、優劣の関係性のなかに配置されるプロセスとパラレルな関係にある。精神障害者や類人という広い範囲の表象を扱うことにより、人種表象の本質が見えてくるかもしれない。本号では、紀要の特性を生かして、より自由な形で研究班のさまざまな班員に執筆して頂き、共同研究の成果をまとめたものである。

本号は、早くから編集の企画を立てておきながら、編者の能力不足により、刊行が予定より大幅に遅れ、多くの方々にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。ご投稿頂ける予定であったものの、諸事情で断念せざるを得なかった論文もあった。他方、その間に新しく寄稿して下さった方々もいる。なお、本号の編集にあたっては、人文科学研究所研究員の渡辺紀子さんにお世話になった。これらの方々に御礼申し上げます。

これまでの商業出版から刊行した論文集とは異なる、より多様な共同研究の成果について、ご批判を頂ければ幸いである。